

2020年12月1日

群馬県スキー連盟クロスカントリー（県内大会）

COVID-19 新型コロナウイルス感染対策クロスカントリー競技会ガイドライン

はじめに

このガイドラインは、県内クロスカントリー競技会を安全に開催するために群馬県連クロスカントリーチームにて作成致しました。大会開催者（組織委員会・競技役員等）および参加者（選手・コーチ・保護者）に守っていただきたい注意点をクロスカントリー競技を対象に記したものです。一人一人が感染予防に留意し、県内クロスカントリー大会を安全かつ確実に実施できるよう、ご協力をお願いいたします。現在、SAJ 競技会ガイドラインには、クロスカントリー競技会のガイドラインは、まだありませんが今後、発行された場合は、SAJ ガイドラインが優先されるものとします。

1. 大会開催について

- ① 大会組織委員会は、本ガイドラインをベースにし、より詳細なガイドラインを定めてもよい。
- ② 大会組織委員会は、参加チームの代表者の連絡先を確認する。
- ③ 大会終了後3日以内に、大会参加者及び競技役員、競技会会場に入場したものに体調不良者が出た場合は、クロスカントリー委員長 萩原和典に報告する。
- ④ 大会終了後2週間以内に大会参加者及び競技役員、競技会会場に入場したものに新型コロナウイルスの感染が判明した場合は、クロスカントリー委員長に報告する。
- ⑤ 萩原和典クロスカントリー委員長 連絡先 080-65097115

2. チームキャプテンミーティング (TCM)

- ① 可能な限り、オンラインでの実施とする。
- ② 対面で開催する場合は、次のことを励行する
- ③ 出入口の手指消毒薬を設置する。
- ④ 入口、出口を分ける。
- ⑤ 会場内では、常時マスク着用する。
- ⑥ 参加者は筆記用具を持参する（貸出はしない）
- ⑦ 窓や扉を2箇所以上開放し、換気に配慮する。
- ⑧ 椅子は前後1m以上の間隔を置いて設置する。
- ⑨ 対面になる場合は、アクリル板等の設置するか十分な距離を取る

⑩ マイクを使用する場合は、消毒を徹底する。

3. スタートエリア

- ① 常時マスクを着用する。ネックウォーマーなどでも良い。
- ② ウォーミングアップの際は、十分な距離を保つことでマスク等は外して良い。
- ③ 選手同士、コーチとは1-2mの対面距離を取る。
- ④ 外したマスクやティッシュペーパー等は、自分で管理し処理する。

4. スタートハウス

- ① スタートハウスに入る役員は、最小限とし、必ず常時マスクを着用する。
ネックウォーマー等でも良い。
- ② 目からの感染防止の為、役員はフェイスシールドやゴーグル、サングラスを使用することが望ましい。
- ③ スタートハウス内に入れる選手数は、1-2m対人距離がとれる人数とする。
- ④ スタートハウス内での大きな声掛けは禁止

5. コース内の応援について

- ① 常時マスクを着用する。ネックウォーマーでも良い。
- ② 応援者と選手の距離が1m以上とれるように配慮する。
- ③ 大声での応援はなるべく避ける。
- ④ 応援者同士の距離は1m以上とする。

6. ゴールエリア

- ① コントロールエリアを通過した選手は、1-2mの対人距離を取る。
- ② ビブは選手個人が回収箱に投入する。
- ③ ビブを扱う際は手袋を着用する。
- ④ 使用済みのビブは、消毒もしくは洗濯する。
- ⑤ 飲食物を提供する場合は、手指消毒をした上で、使い捨て手袋を使用する。

7. 開会式、表彰式

- ① 開会式は行わない。
- ② 表彰式は行わない。行う場合は選手、授与者とも手袋の着用する。
- ③ 行う場合は、式典開始前に手指消毒を行い握手やハグは行わない。

8. 競技役員

- ① 当日の検温を実施し、37.5 度以上の人は、体調の悪い人の業務の参加を認めない。
- ② 用具を共用した手袋で、目や鼻をこすらないように注意する。
- ③ 屋外待機所においても 1m以上の対人距離を保つ
- ④ 集団で作業する場合は、対人距離と作業者の呼吸の方向に注意する。
- ⑤ 作業で呼吸が荒くなった場合は、十分な対人距離を取る。
- ⑥ 弁当や飲み物を配布数場合は、手袋を着用する。
- ⑦ 無線機は、1日の業務終了後消毒する。